

氏 名（本籍）	やま ね ち え（山口県） 山 根 千 絵
報 告 番 号	甲第 29 号
学 位 の 種 類	博士（健康福祉学）
学 位 記 番 号	健康福祉博甲第 29 号
学位授与年月日	2025（令和 7）年 3 月 18 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当（課程博士）
学 位 論 文 題 名	児童養護施設において家庭支援専門相談員が行う ソーシャルワーク展開上の専門性の検討
論文審査委員	主 査 教 授 徳 田 和 央 副 査 教 授 田 中 マキ子 副 査 教 授 横 山 正 博

論 文 要 旨

児童養護施設において家庭支援専門相談員が行うソーシャルワーク展開上の専門性の検討

児童養護施設では、子どもの権利保障の観点から、早期の家庭復帰の推進が求められている。現在、児童養護施設には、子どもの円滑な家庭復帰を支援する家庭支援専門相談員が配置されている。家庭復帰支援においては、高度な専門性に基づいたソーシャルワークの展開が求められる。しかし、子どもの家庭復帰に向けたソーシャルワークを展開するうえでの専門性は十分に確立されているとは言えない状況がある。そこで、本研究では、家庭支援専門相談員の子どもの家庭復帰に向けたソーシャルワーク展開上の専門性を明らかにすることを目的とした。

第 1 章では、先行研究のレビューから、家庭支援専門相談員の独自の機能やソーシャルワークの展開方法などの理論を確立し、現状における支援の成果や課題等を検証しながらその専門性を明らかにすることが必要であることを述べた。第 2 章では、研究の目的と用語の定義について述べた。第 3 章では、家庭支援専門相談員を対象にインタビュー調査を行い、子どもの家庭復帰に向けたソーシャルワーク展開上の要因及び要因間の関連性につ

いての仮説モデルを生成した。第 4 章では、家庭支援専門相談員を対象に質問紙調査を行い、第 3 章で生成した仮説モデルを共分散構造分析により検討し、家庭支援専門相談員が行う子どもの家庭復帰に向けたソーシャルワーク展開上の専門性についての知見を述べた。第 5 章では、まとめを述べた。

家庭支援専門相談員が行う子どもの家庭復帰に向けたソーシャルワークの展開は、子どもの最善の利益を第一とする認識を起点に、具体的な支援行動としての「アセスメント・プランニング」「子どもや保護者への支援」「施設内外の連携」「家庭復帰の評価・見極め」へと展開していることが明らかとなった。その中で特に、「保護者に対する支援」と「児童相談所との連携」は、ソーシャルワーク展開上の専門性として抽出された。しかし、ソーシャルワークを展開する要因間の検討において、ソーシャルワーク展開上の「家庭復帰の評価・見極め」は、「専門職としての意識」から直接の影響を強く受けていた。このことから、「保護者に対する支援」と「児童相談所との連携」の専門性は、十分に発揮されていないことが推察された。

Abstract

Examination of the Expertise of Family Social Workers in the Social Work Deployment at Children's Homes

The promotion of early family reunification is required from the perspective of ensuring children's rights in children's homes. Currently, family social workers are assigned to support the smooth reintegration of children into their families. In family reunification support, the development of social work based on high-level expertise is necessary. However, it cannot be said that the expertise required for implementing social work towards children's family reunification is fully established. Therefore, this study aims to clarify the expertise of family social workers in deploying social work towards children's family reunification.

Chapter 1 discusses the need to establish theories regarding the unique functions and methods of social work of family social workers by reviewing prior research and examining the current achievements and challenges faced in their support. Chapter 2 outlines the research objectives and defines key terms. Chapter 3 conducts interview research with family social workers to generate a hypothesis model regarding the factors and interrelations involved in deploying social work aimed at children's family reunification. Chapter 4 conducts a survey using questionnaires targeting family social workers and examines the generated hypothesis model through covariance structure analysis, presenting insights into the expertise of family social workers' deployment of social work for children's family reunification. Chapter 5 states the conclusion.

The deployment of social work by family social workers aimed at children's family reunification is shown to stem from a recognition that prioritizes the best interests of the child, expanding into specific support actions such as "assessment and planning," "support for children and parents," "collaboration inside and outside the facility," and "evaluation and discernment of family reunification." Particularly, "support for parents" and "collaboration with child consultation centers" were identified as areas of expertise in social work deployment. However, in examining the factors influencing the deployment of social work, the "evaluation and discernment of family reunification" is strongly influenced directly by the "awareness as a professional." This suggests that the expertise in the supportive actions of "support for parents" and "collaboration with child consultation centers" is not being sufficiently realized.

審 査 結 果

本論文は、児童養護施設に必置とされている家庭支援専門相談員が行う子どもの家庭復帰に向けたソーシャルワーク展開上の専門性（以下、専門性）を明らかにすることを目指している。

本論文において、第 1 章で児童養護施設における家庭支援専門相談員をめぐる現状と課題を述べた上で、第 2 章で研究にあたっての問題の所在と目的を述べている。第 3 章及び第 4 章では、質的調査により専門性の仮説生成を行ない第 4 章ではその仮説を量的調査によって検討し、その専門性を抽出している。

博士論文審査基準に照らし、以下のように本論文を評価した。

- 1.研究課題の明確化：研究の問題の所在及びそれに基づく研究課題は妥当であった。
- 2.先行研究の適切な検討：重要な論文について、発表年の経年的特徴及び研究内容によるカテゴリ化が示されており、概ね適切な検討がなされていた。
- 3.研究方法の適切な選択と実施：質的調査により仮説を生成し、仮説の検討のために量的調査を行っており、妥当な方法を選択している。分析には共分散構造分析を用いた点は高く評価できる。
- 4.新たな知見の提示と学問の発展への貢献：家庭支援専門相談員のソーシャルワーク展開上の専門性が明らかにしつつ、実践現場においてはまだ十分その専門性が発揮されていない課題があることを主張した。今後専門性を高めるための研究に発展させる可能性が認められた。
- 5.文章作成能力：論文全体の体裁及び表現力は適切であった。

最終試験では、研究の意義や目的、研究方法、今後の展開の見込みなどについての質問がなされ、概ね適切な回答が得られた。

なお、予備審査において、本人筆頭の査読付論文 1 編「児童養護施設の家庭支援専門相談員の支援実態と課題-子どもの権利意識と支援行動の関連性の検討」中国・四国社会福祉研究第 11 号（2024）を確認している。

以上の所見を総合して、上記の者は博士論文審査及び最終試験に合格したものと認める。